

第1回仙台市情報モラル教育推進会議 概要



大型連休が明けた5月8日（金）、仙台市教育センターにおいて、第1回「仙台市情報モラル教育推進会議」を開催しました。この会議は、今年度仙台市の新規事業である「仙台市情報モラル教育推進事業」の具体的な取組内容について検討を行うために設置したものです。

会議のメンバーは、教育局職員、仙台市小学校長会、中学校長会、仙台市PTA協議会の代表からなる11名の委員で構成されています。加えて3名の学識経験者の先生方をアドバイザーとして迎え（※）、専門的な見地から指導助言を受けながら事業を実施していきます。

（※アドバイザー：東北大学大学院 堀田龍也教授、東北大学大学院 篠澤和久准教授、宮城教育大学 安藤明伸准教授）

第1回のこの日は、会議に先立って、大越教育長からあいさつがあり、その後、東北大学大学院の堀田龍也教授による基調講演「学校の情報化推進にあたっての光と影」を拝聴し、情報モラルに関する現状や課題を共有したうえで、会議メンバーによる意見交換が行われました。

情報モラルに関する課題に対応するためには、児童生徒が自ら判断し、行動できる資質や能力の育成を図っていくことが重要であり、学校と家庭がお互いの役割を意識しながら、児童生徒に対して、情報モラル教育を効果的に行えるような取組を進めていくことの大切さが改めて確認されました。

推進会議後には、「家庭における推進検討部会（保護者3名、教育局職員6名）」「学校における推進検討部会（学校職員20名、教育局職員4名）」の2つの部会も開催しました。

家庭における推進部会では、学校と家庭が連携を図りながら、共通認識の下で情報モラル教育を推進していくための、啓発パンフレットの作成などを実施する予定です。学校における推進検討部会では、情報モラル教育のカリキュラムや題材集を作成する予定です。

東北大学大学院情報科学研究科

堀田 龍也（ほりた・たつや） 教授からのメッセージ

心の教育が重視される中、身に付けた道徳的実践力が日々の行動に表出するよう指導することは当然です。

しかし、情報社会に関する知識が不足していると、心が育った子供たちであっても様々なことに巻き込まれてしまうという現実があります。子供たちを守るためには、心の教育と同時に、情報社会に関する知識を指導し、情報社会の利便性の後ろにある影を見誤らない判断力を身に付けさせる必要があります。時には子供たちから教えてもらいながら、実効的な情報モラル教育が展開されることを期待します。

